

自己評価結果報告 概要

2019年度

評価判定は、保護者アンケートを受けて職員それぞれが4段階（A 十分達成されている・B 達成されている・C 取り組まれているが成果が十分でない・D 取り組みが不十分である）に振り分け自己評価しI項目ずつ全体を平均したものを表記しています。

I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

評価A

- 1 園の教育理念・教育目標の理解
- 2 幼稚園教育要領の理解
- 3 教育課程の編成
- 4 指導計画の作成
- 5 環境構成
- 6 評価・反省

という 6つの観点から達成度を振り返りました。

- ・経験年数に個人差があるもののそれぞれが手宮幼稚園の理念と目標を理解しようと努力しました。その事を踏まえたうえで保育計画を立てて実践してきました。一人で解決できないことは、他の保育者に相談することで新たな気づきも見られました。
- ・保育者が増えることで連絡等の伝達が不十分なこともあり、戸惑う場面が見られました。
- ・日々の保育計画を作成するにあたり、一人一人を把握しクラス全体の雰囲気大切に、保育計画を立てるよう努力しましたが、年齢による発育の差が出てきて苦しみ場面も見られ保育計画の立て直しに苦勞しました。
- ・昨年度の自己評価を基に自己課題を見つけ取り組む姿が見られました。

《 改善策として 》

- ・事前準備を計画的に行うことで子ども達へのきめ細やかな保育を目標とする。
- ・保育者間での伝達や仕事分担などを明確にすることで、思い込みや勘違いを軽減する。
- ・日々の反省や見返りをする時間が足りなくなることもあり、保育計画の簡素化を図る。

II 「保育者の在り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

評価A

- 1 健康と安全への配慮
- 2 幼児理解
- 3 指導と関わり
- 4 保育者同士の協力・連携

という 4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・今年度は、マメール配信を取り入れ保健所からの流感について保護者の方々に連絡することが出来たが、熱がないために登園されるお子さんも多く園内にてマスクを着用するよう努力したが、飛沫感染で広がる為、休園の措置を取ることもあったが、衛生面に関しては、消毒の徹底

とマスク、手洗いを徹底するよう努力したことは良かったと思います。

- ・保育者も環境の一部と心がけ保育を行ってきました。子ども達の遊びの中に積極的に加わり一人一人を把握する努力に努めました。一緒に笑い本当に楽しいことを伝え、様々事に興味を抱く豊かな心を育てるよう努めました。
- ・日々の保育の中で、徐々に園児が増える事で対応にも追われることが多かったが、担任一人ではなくフリーの保育者や職員の協力により子ども達への対応も丁寧が出来たと思います。

《 改善策として 》

- ・クラス運営の枠を外し、園全体で一人の子どもを見つめ直すよう心がける。
- ・保育者、職員が同じ方向に向いた保育を行う様に報告・連絡・相談を心がけるよう努める。
- ・朝の視診および登園時の手洗いを定着するよう努める。

Ⅲ「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

評価B

1 専門家としての能力・姿勢・義務

2 組織の一員としての在り方

という2つの観点から達成度を振り返りました。

- ・昨年の自己評価を踏まえそれぞれが、子ども達の幼児期をどのように育てていくか目標を立てて取り組みました。クラス全体での活動や友達との関係を沢山築くことで、コミュニケーション力をより多く育てることが出来たと思います。また、保育者は、子ども達にとっての環境の一部であることも心に留め保育に努めました。
- ・職員が同じ方向で保育するよう心がけ、分からないことを勝手に咀嚼してしまわないよう聞く姿勢を持つ努力をしましたが、意思の伝達が不十分な場面もあり、保育者間での話し合いを深める場面も見られました。
- ・インフルエンザや急性胃腸炎が蔓延し、保育者も感染してしまい臨時休園がありました。

《 改善策として 》

- ・流感に関しては、マスクと手洗い水分補給を徹底し、マメールにて保護者への連絡を細目に行うようにする。熱以外での体調不良も保護者向けにこまめに発信していく。
- ・保育者間での意思の疎通を明確にしていくよう、時間を積極的に作る。
- ・年齢、職種関係なく職員全体が一つになれる時間を作る。

Ⅳ「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

評価A

1 情報発信と受信

2 守秘義務の遵守

3 対応上のマナー・心がまえ

4 クレームへの対処の仕方

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・ブログやクラス通信、個人記録の写真化の他、マメールによる一斉配信などを取り入れてきたが、多くの方が理解が深められたように思う。しかし、情報発信をもっと求める声も聞かれ現代の情報の求め方にどうしても伝えたいこととの選別に悩まされるものがあった。

- ・保育者と保護者間での子育ての統一感が少なくなってきたように感じ、どのようにして発信していくか課題が残った。

《 改善策として 》

- ・保護者と保育者が集まれる機会を増やす。
- ・PTA 活動を積極的に応援しコミュニケーションの場として広めていく。
- ・幼稚園職員間での子どもの育ちの大切なことを見つめ直す研修を行う。

V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

評価B

- 1 地域の自然・人々とのかかわり
- 2 小学校との連携
- 3 子育て支援と地域への開放

という3つの観点から達成度を振り返りました。

- ・手宮幼稚園が外に向かって開かれた保育を行うために積極的に散歩などに出かけ幼稚園からどんな場所があるのか子ども達と散策をすることが出来ました。しかし、自然を取り入れた環境作り等の保育計画が上手く出来なかったことはこれからの課題となります。
- ・地域にある老人福祉施設訪問を行っていますが、ノロウイルス等で休園になり1ヶ所訪問できずに終わり子ども達と準備してきたことが出来なくなりました。しかし、ご高齢者にとって子ども達の生きることにみなぎったパワーは、とても良い刺激がありとても喜ばれているため、これからも子ども達と計画を立てて準備していきたいと思います。
- ・地域にある小学校とは、地域参観日が研修会と重なった為、行くことが出来ずに終わりましたが、運動会など卒園した子ども達が大きく成長した姿を確認することが出来ました。
- ・地域開放未就園のあひるの会は、沢山の方々に参加していただいたことに感謝とそこから幼稚園に繋がってくださったことに感謝です。
- ・個人懇談を定期的なものとは別に行ったことで、保護者の子育て不安を少しでも改善できたように思います。

《 改善策として 》

- ・1年間の保育計画の中で、子ども達にどのように育ってほしいのか様々な角度から見つめ直す。その中で自然を取り入れた計画を積極的に取り入れる工夫をする。
- ・未就園児に関しては、多数の方々にご利用いただきました。その中で今困っていることなどの子育て相談も行うことが出来、核家族の中にある保護者にとって安心して相談できる場として今後も提供し続けていきたいと思います。

VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

評価B

- 1 研修・研究への意欲・態度
- 2 保育者としての専門性に関する研修・研究
- 3 今日的課題に関する研修・研究
- 4 園内の環境・遊具・教材に関する研修・研究

という4つの観点から達成度を振り返りました。

- ・免許更新講習を受ける教諭が2名と新任研修を受ける教諭が1名いたことで、幼児保育の見直しをする機会が与えられました。
- ・新しい分野への研修にも参加することが出来、新たな視点や知識を得ることが出来、保育に活かすことが出来ました。
- ・それぞれの研修は、充実し保育実践へ役立つ学びを得ることが出来ましたが、園内研修を行うことが難しく他の教諭に提言する機会が設けられずに終わったことが残念でした。

《 改善策として 》

- ・園内研修を計画的に取り入れ職員全体での話し合う時間を多く設けるように努力する。
- ・新しい研修に興味を持って1度は参加するようにする。